

バージョンアップガイド (Ver.6→Ver.7)

ONE Ver.6 から Ver.7 へのバージョンアップ内容をご紹介します。

※解説内容がオプションプログラムの説明である場合があります。
ご了承ください。

目次

バージョンアップガイド ONE (Ver.6→Ver.7)

1 メイン・共通 P.1

- 1- 1 任意座標変換機能を追加 _____ 1
- 1- 2 任意タイル追加に対応 _____ 2
- 1- 3 点番選択ダイアログを改良 _____ 2
- 1- 4 計算書・表のフォント指定に対応 _____ 3

2 地番管理 P.4

- 2- 1 結線重複検索を改良 _____ 4

3 CAD P.5

- 3- 1 TREND-POINTとのトレース連携機能を強化 _____ 5
- 3- 2 文字の取り消し線に対応 _____ 6
- 3- 3 座標地番登録に要素選択モードを追加 _____ 6
- 3- 4 伸縮ダイアログの表示位置を変更 _____ 6
- 3- 5 勾配から標高計算に対応 _____ 7
- 3- 6 線上マークの優先選択に対応 _____ 7
- 3- 7 法面の斜面記号追従に対応 _____ 7
- 3- 8 文字移動時に角度を参照する機能を追加 _____ 8
- 3- 9 Z座標の自動設定に対応 _____ 8
- 3- 10 地積図・測量図一筆配置に
方位マーク配置機能を追加 _____ 9
- 3- 11 レイヤの追加読み込みに対応 _____ 9
- 3- 12 文字を一覧表示する機能を追加 _____ 10
- 3- 13 標準図式 (DM) を追加 _____ 10
- 3- 14 DM属性編集機能を追加 _____ 11
- 3- 15 3点垂直計測を改良 _____ 11
- 3- 16 要素種別選択/全ページ一括訂正機能を追加 _____ 12
- 3- 17 モノクロスタのPDF印刷を改良 _____ 12

4 電子野帳取込・基準点測量 P.13

- 4- 1 中数値表示機能を追加 _____ 13
- 4- 2 プロット形状確認機能を追加 _____ 14
- 4- 3 点検路線の方向角を丸めた座標で計算 _____ 14

5 ST 計算(検定) P.15

- 5- 1 平面直角座標から球面方向角計算の変更に対応 _____ 15

6 点の記 P.16

- 6- 1 計画機関名の出力に対応 _____ 16

7 河川定期縦横断測量 P.17

- 7- 1 中州の複数箇所指定に対応 _____ 17
- 7- 2 水位線縦断連動機能を追加 _____ 17
- 7- 3 断面積計算書を追加 _____ 18

8 3次元計測 P.19

- 8- 1 斜め往復撮影に対応 _____ 19
- 8- 2 DJIPilotのマッピングモードに対応 _____ 20
- 8- 3 撮影／飛行ルートを開始位置変更に対応 _____ 21
- 8- 4 グリッドコースの自動作成に対応 _____ 22
- 8- 5 手動コースの個別削除に対応 _____ 22
- 8- 6 作業規程の準則改訂に対応 _____ 23

9 図枠カスタマイズツール P.29

- 9- 1 申請文字を追加 _____ 29

1 メイン・共通

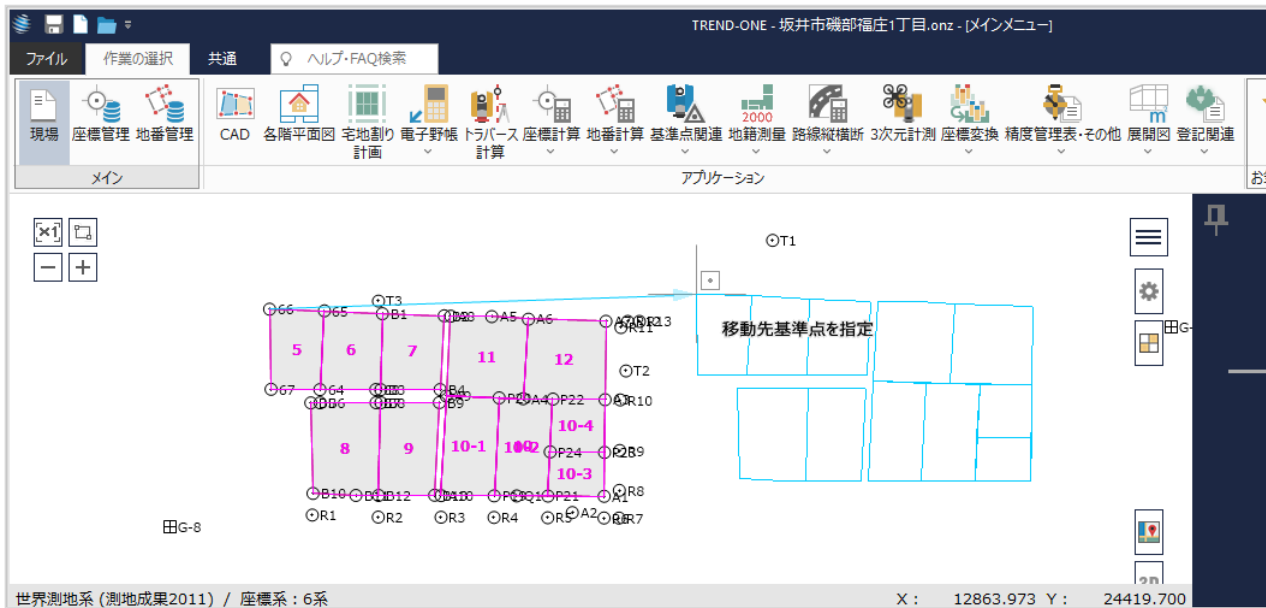
メイン・共通の新機能をご紹介します。

1-1 任意座標変換機能を追加

現場プロットで手軽に任意座標を公共座標に合わせられるようにしました。



座標変換する座標地番を指定



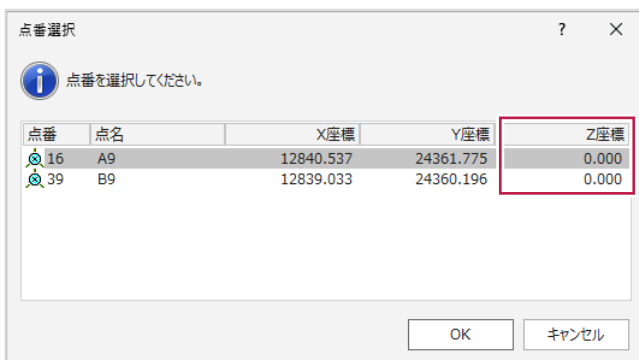
1-2 任意タイル追加に対応

[地理院タイル設定] に任意のタイルを追加して利用できるようにしました。



1-3 点番選択ダイアログを改良

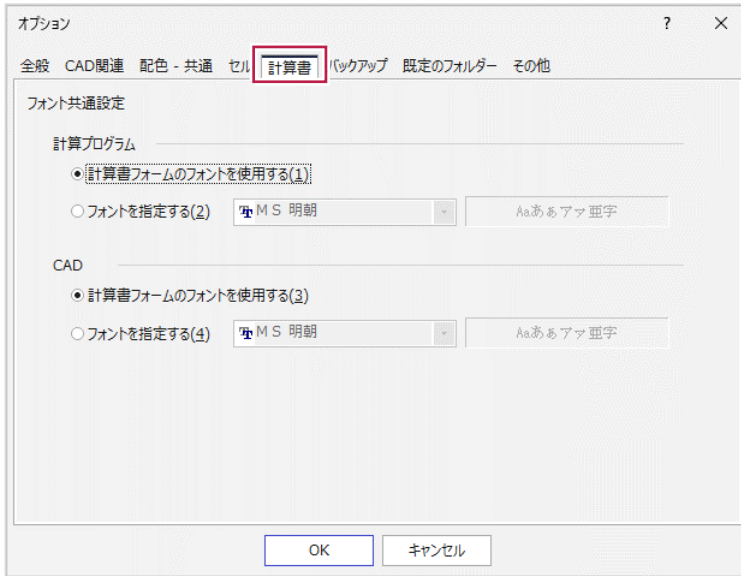
点番選択ダイアログにZ座標も表示するようにしました。



1-4

計算書・表のフォント指定に対応

[ファイル] - [オプション] に [計算書] タブを追加し、計算書やCADに配置する表のフォントを指定できるようにしました。



【計算プログラム】

計算書で使用するフォントを設定します。

【CAD】

CADに配置する表のフォントを設定します。

【計算書フォームのフォントを使用する】

[フリーフォーマット作成] で指定したフォントを使用します。

【フォントを指定する】

フォントをリストから選択します。

計算書の作成ダイアログで設定することもできます。



【【ファイル】-[オプション]-[計算書]のフォント】

【ファイル】 - 【オプション】 - 【計算書】 タブの
【計算プログラム】 で指定したフォントで計算書を作成します。

【フォントを指定】

リストで指定したフォントで計算書を作成します。

2 地番管理

地番管理の新機能をご紹介します。

2-1 結線重複検索を改良

【構成点チェック】の【結線重複検索】タブにおいて、結線の表現に「重なり無し」を追加しました。
また、線の色や太さを設定できるようにしました。

地番構成点チェック

対象地番(G)

No.	地番No	地番名
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		

CADで対象地番を範囲選択(W)

終了(E)

登録部分を拡大表示(B)

隣接構成点検索 地番重複検索 **結線重複検索**

開放地番も検索対象(Q) 結線チェック(S) 結果クリア(P)

重なり無し 細線 太線

二重結線 細線 太線

三重以上 細線 太線

※各色は[表示設定]-[色]-[入力データ]の1～3を使用しています。

3 CAD

CADの新機能をご紹介します。

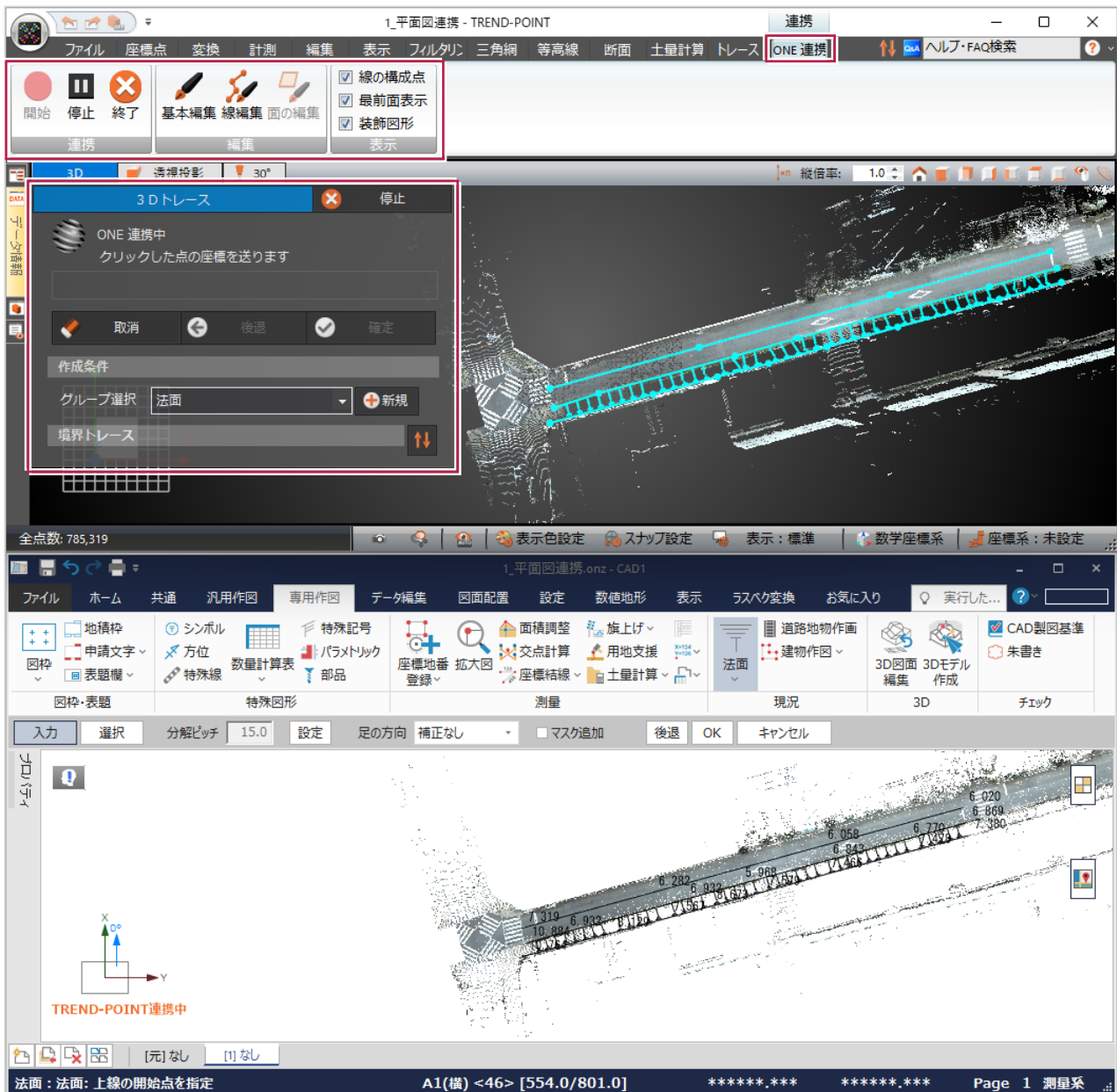
3-1 TREND-POINT とのトレース連携機能を強化

・TREND-POINT Ver.11への描画同期

従来はONEで入力した要素について点と線のみTREND-POINTに同期可能でしたが、ONE Ver.7ではその他の要素（円弧、記号、ハッチング、塗潰しなど）や、要素の移動や削除などの編集についても同期するようにしました。

・TREND-POINT Ver.11からの連携

TREND-POINTからの座標やトレース線の連携において、従来はONE側で連携中のコマンドを制御する必要がありましたが、ONE Ver.7ではTREND-POINT Ver.11内のコマンドで連携中のコマンドの制御を可能にしました。



3-2 文字の取り消し線に対応

[取り消し線] コマンドを追加し、文字の取り消し線を簡単に設定できるようにしました。



3-3 座標地番登録に要素選択モードを追加

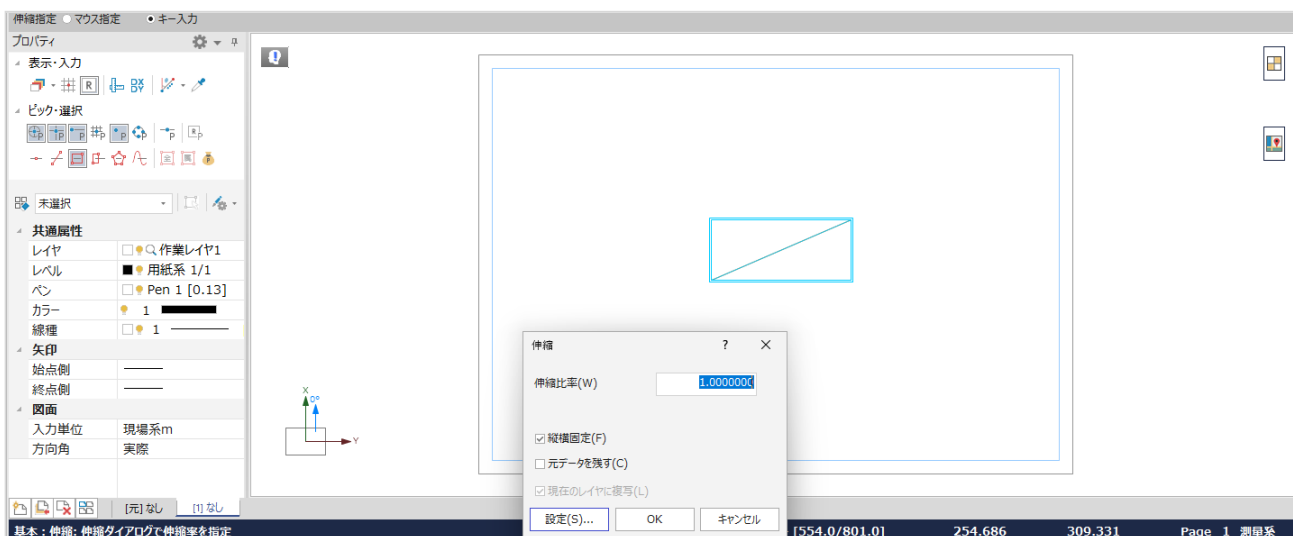
[座標地番登録] コマンドに「要素選択」を追加し、指定した要素の構成点を座標登録できるようにしました。



3-4 伸縮ダイアログの表示位置を変更

[伸縮] コマンドで、伸縮ダイアログの位置を覚えるようにしました。

(初回：真ん中下、次回以降：前回の位置)



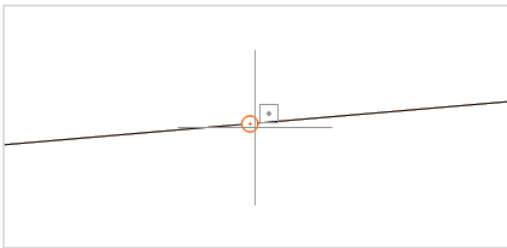
3-5 勾配から標高計算に対応

[線伸縮] コマンドで、伸縮した長さに応じて、勾配を維持してZ値を再計算できるようにしました。



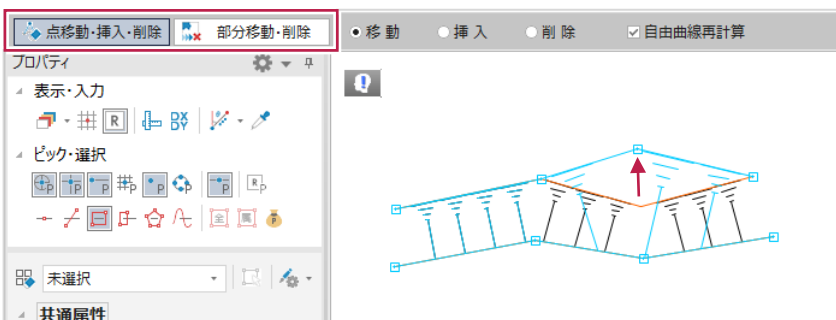
3-6 線上マークの優先選択に対応

[属性スタンプ] コマンドで、要素が重なっているところをクリックして複写元を指定する時に、マークを優先して選択するようにしました。



3-7 法面の斜面記号追従に対応

[移動・挿入・削除] コマンドの[点移動・挿入・削除] [部分移動・削除] で、通過点を編集した時に自動で斜面記号が追従するようにしました。

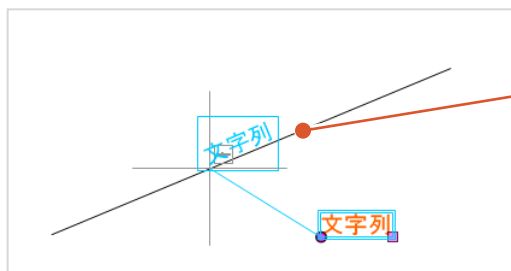


3-8

文字移動時に角度を参照する機能を追加

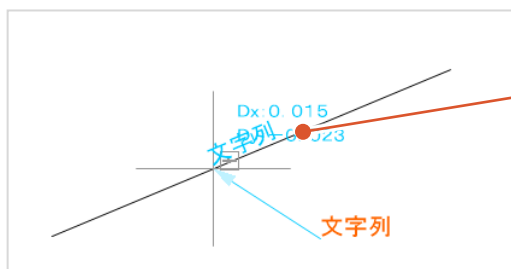
文字を移動する時に、他の要素の角度を取得して文字の角度に設定できるようにしました。

- ・ドラッグして移動・複写する場合

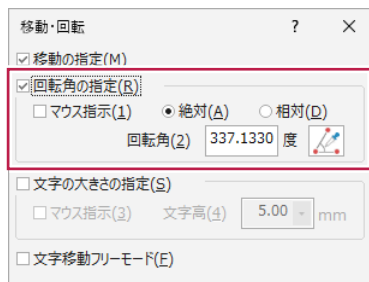


要素の上でShiftキーを押すと角度を取得できます。

- ・ [文字編集] - [移動・回転] コマンドを使用する場合



Shiftキーを押しながら要素を指定すると、角度を取得できます。



3-9

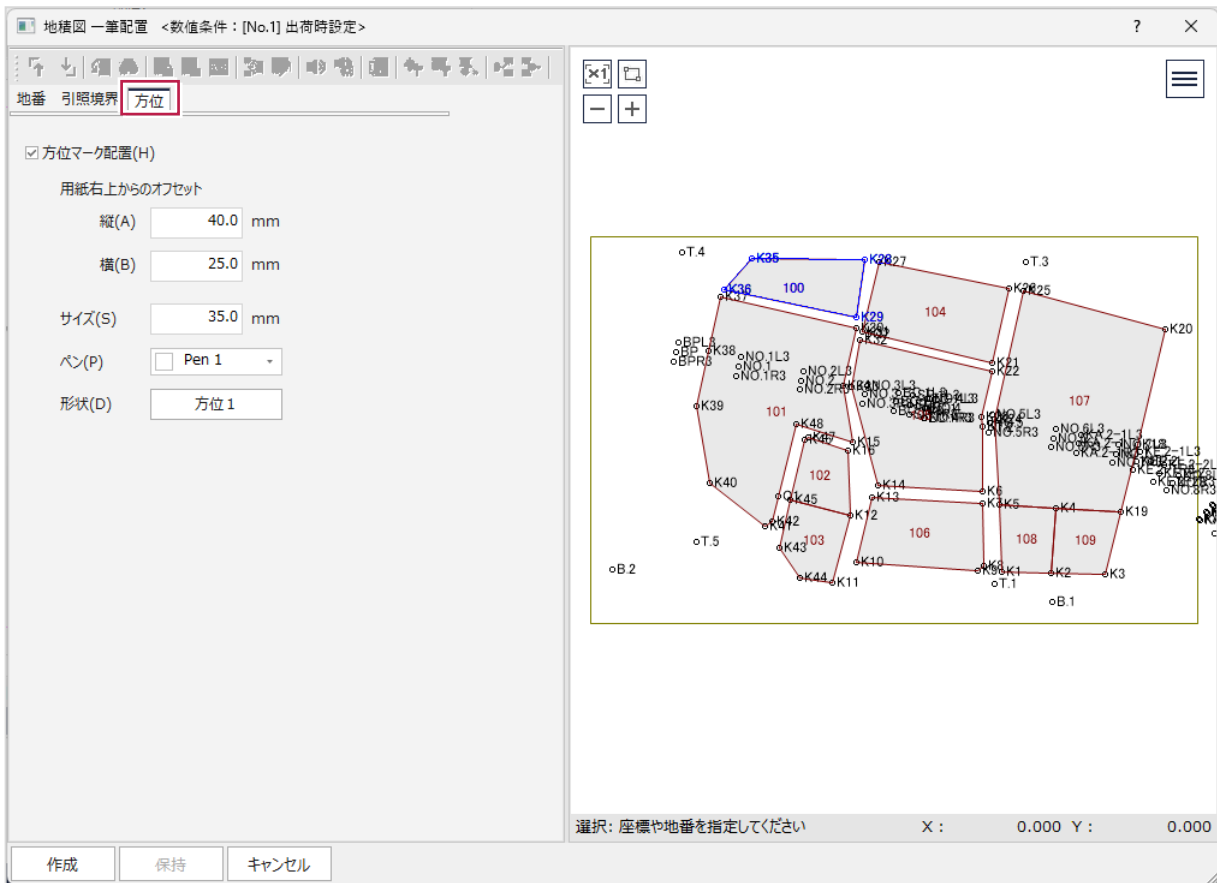
Z座標の自動設定に対応

Z座標が設定されている要素を基準として動作する各コマンドにおいて、処理後に発生する要素にZ座標を自動で設定するようにしました。

(実装コマンド：連続平行線、平行線、平行円、範囲指定カット、マーク指定カット、延長止線、整合、面取り)

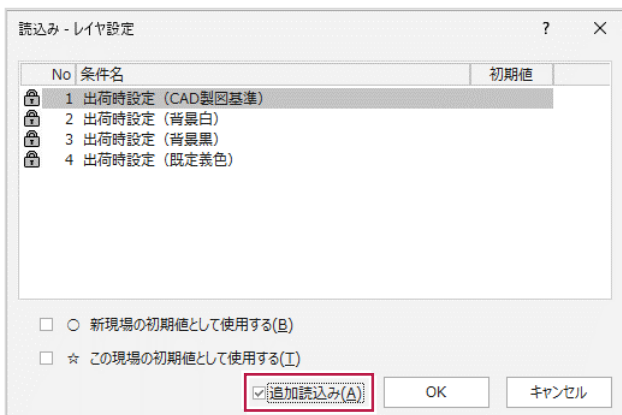
3-10 地積図・測量図一筆配置に方位マーク配置機能を追加

[地積図一筆配置] [測量図一筆配置]コマンドに [方位] タブを追加し、方位マークを配置できるようにしました。



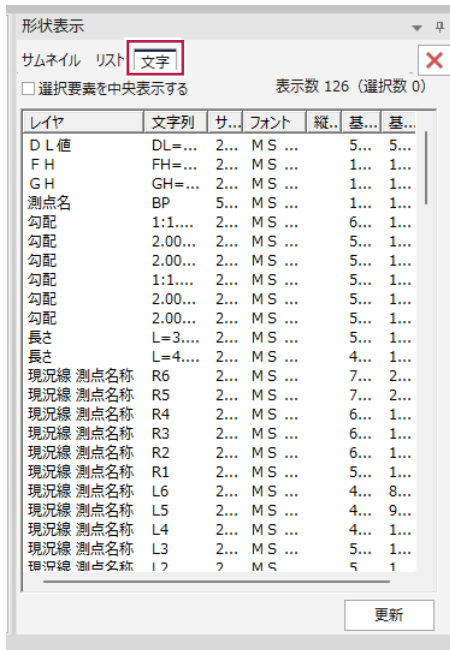
3-11 レイヤの追加読み込みに対応

[レイヤ設定] コマンドで、[読み込み] でレイヤ設定を読み込む時に、追加読み込みできるようにしました。



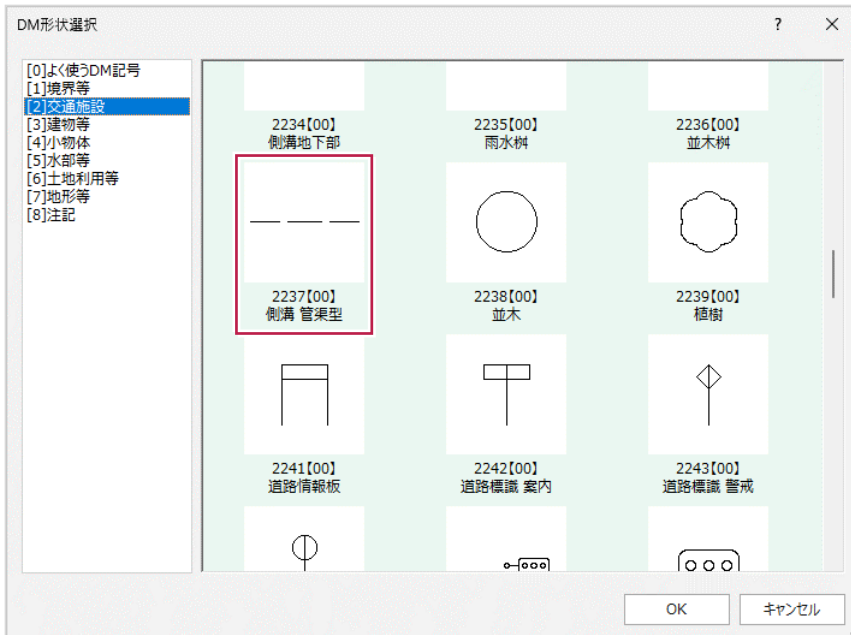
3-12 文字を一覧表示する機能を追加

[形状表示] コマンドに [文字] タブを追加し、ページ内の文字を一覧表示できるようにしました。



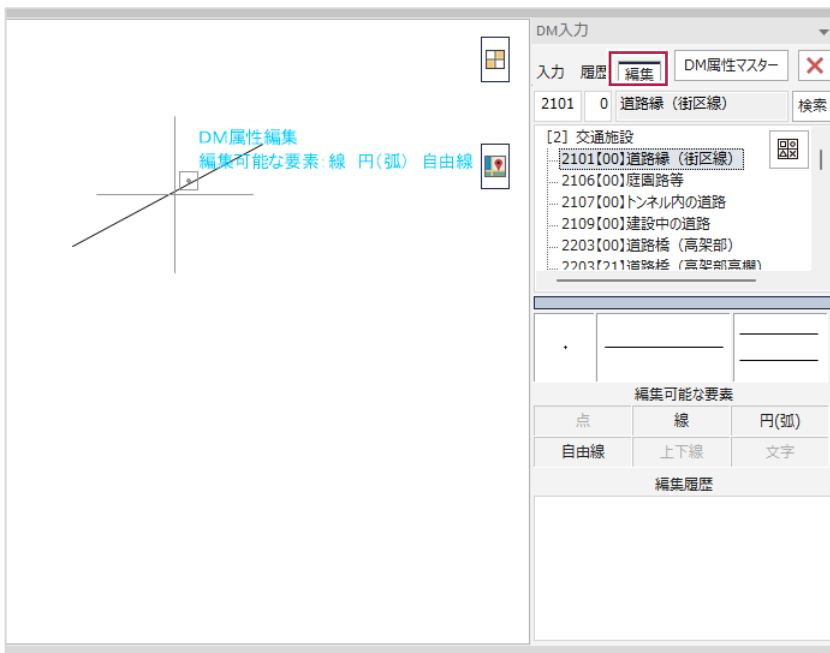
3-13 標準図式 (DM) を追加

DMに分類コード2237「側溝 管渠型」を追加しました。



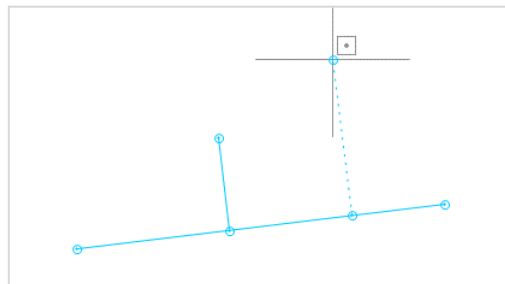
3-14 DM 属性編集機能を追加

[DM入力モード] コマンドに [編集] タブを追加し、DM属性を選択して要素を指定することで、指定した要素に選択したDM属性を設定できるようにしました。



3-15 3点垂直計測を改良

[3点垂直] コマンドで、1点目と2点目を固定した状態で3点目だけを連続で入力できるようにしました。

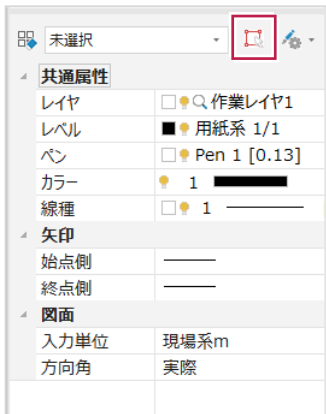


3-16 要素種別選択/全ページ一括訂正機能を追加

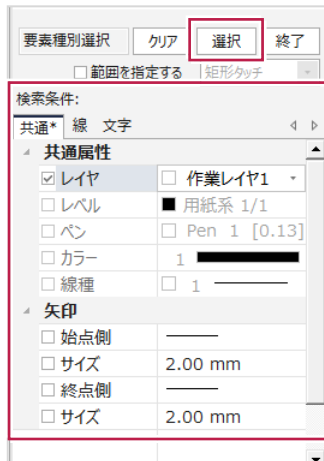
プロパティに、要素種別ごとに選択できる機能を追加しました。

また、要素種別で選択した条件で、全ページに対して一括訂正できるようにしました。

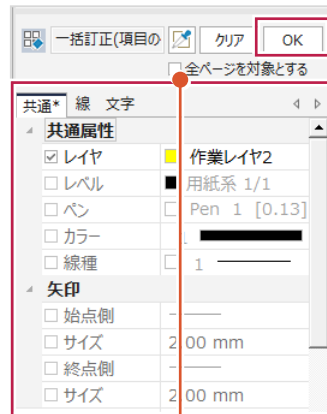
[要素種別選択] をクリック



検索条件を設定して
[選択] をクリック



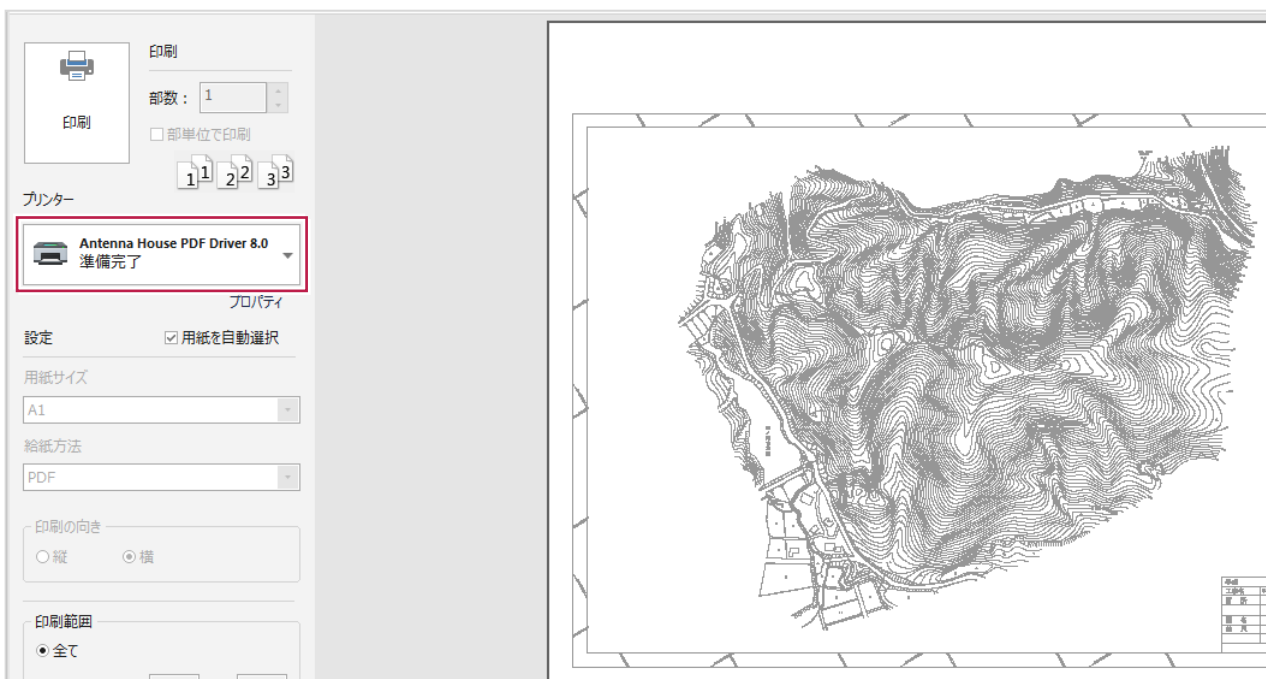
訂正する属性を設定して
[OK] をクリック



全ページを対象に一括訂正する場合は、
[全ページを対象とする] をオンにします。

3-17 モノクロスタの PDF 印刷を改良

[印刷] コマンドで、モノクロスタの色が黒以外の場合でも、透過してPDF出力するようにしました。



4 電子野帳取込・基準点測量

電子野帳取込・基準点測量の新機能をご紹介します。

4-1 中数値表示機能を追加

〔中数値〕コマンドを追加し、手簿計算後の中数値を一覧表示できるようにしました。

《電子野帳取込》の場合：〔手簿データ〕タブー〔データ確認〕グループ内

《基準点測量》の場合：〔手簿〕タブー〔データ確認〕グループ内



The '中数値' (Average Value) dialog box displays a table of measurement data. The table has the following columns: 器械点No (Instrument Point No.), 器械点名/視準点名 (Instrument Point Name/Sighting Point Name), 水平角 (Horizontal Angle), 高度角 (Vertical Angle), 斜距離 (Slope Distance), 器械高 (Instrument Height), 目標高 (Target Height), and 備考 (Remarks). The data is grouped by instrument point number (1 to 5).

器械点No	器械点名/視準点名	水平角	高度角	斜距離	器械高	目標高	備考
1	G-1						
	G-5	0.0000	1.0020		1.500	1.500	
	T1	301.0228	0.2535	94.247	1.500	1.500	
2	T1						
	G-1	0.0000	-0.2543		1.500	1.500	
	T2	126.0825	0.5155	45.391	1.500	1.500	
3	T2						
	T1	0.0000	-0.5205		1.500	1.500	
	T3	237.2048	1.5327	59.521	1.500	1.500	
4	T3						
	T2	0.0000	-1.5323	59.521	1.500	1.500	
	G-8	117.0410	1.3707	70.969	1.500	1.500	
5	G-8						
	T3	0.0000	-1.3703		1.500	1.500	
	G-10	168.0334	-4.3540		1.500	1.500	

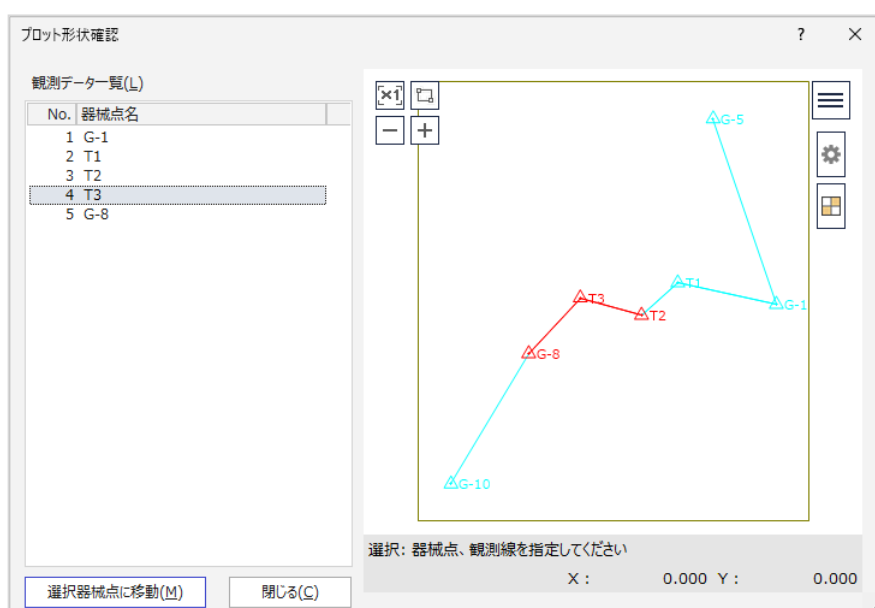
At the bottom of the dialog box, there is a search section titled '点名検索' (Point Name Search). It includes a checked checkbox for '器械点(1)' (Instrument Point (1)) and an '上検索(U)' (Up Search) button. There is also an unchecked checkbox for '視準点(2)' (Sighting Point (2)), a '完全一致(A)' (Exact Match) checkbox, and a '下検索(E)' (Down Search) button. On the right side, there are buttons for 'クリップボードへコピー(P)' (Copy to Clipboard) and '閉じる(C)' (Close).

4-2 プロット形状確認機能を追加

[プロット形状確認] コマンドを追加し、観測データのプロット形状を確認できるようにしました。

《電子野帳取込》の場合：[手簿データ] タブ - [データ確認] グループ内

《基準点測量》の場合：[手簿] タブ - [データ確認] グループ内



4-3 点検路線の方向角を丸めた座標で計算

《基準点測量》で、初点・後視点（共に既知点）の座標値を「計算座標の丸め」で丸めてから方向角計算するようにしました。

- ・既知点が真数の場合、「計算座標の丸め」を「表示座標の丸め」と同じにすることで、座標計算書の初点方向角が手計算と同じになります。
- ・既知点が真数の場合、Ver.6以前の座標計算書の結果と同じにするには、「計算座標の丸め」を真数にしてください。

5 ST 計算(検定)

ST計算(検定)の新機能をご紹介します。

5-1 平面直角座標から球面方向角計算の変更に対応

平面直角座標から球面方向角計算の変更に対応しました。

6 点の記

点の記の新機能をご紹介します。

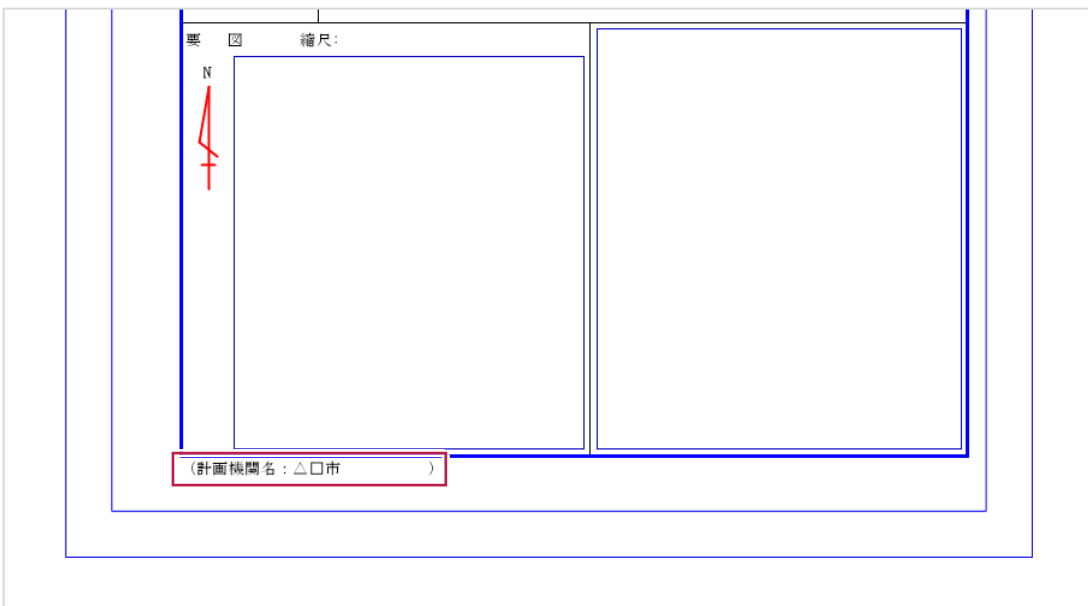
6-1 計画機関名の出力に対応

計算書「基準点・水準点（詳細）」で、「計画機関名」を出力できるようにしました。



No.	隣接点名1	隣接点名2	距離1	距離2	備考3	備考4	アンテナ高	要図縮尺 (図名)	作業機関名	計画機関名
1										△口市
2										
3										

計算書作成



7 河川定期縦横断測量

河川定期縦横断測量の新機能をご紹介します。

7-1 中州の複数箇所指定に対応

中州を複数箇所指定できるようにしました。

中州範囲入力

中州の範囲を指定します。(指定範囲の面積は低水路面積から除外されます)

中州選択(S) 中州1 中州2 中州3 中州4 中州5 中州6 中州7 中州8 中州9 中州10 中州11 中州12 中州13 中州14 中州15 中州16 中州17 中州18 中州19 中州20

130,000 m ~ 150,000 m

キャンセル

範囲が設定されている中州には「○」が表示されます。

7-2 水位線縦断連動機能を追加

横断から縦断に水位線を連動できるようにしました。

水位線 水平入力 比高 0.00 m 低水路範囲... 中州... 水位線自動作成... 水位線縦断連動...

水位線・低水路範囲・中州はCAD上での測点選択で数値が入力できます。

水位線縦断連動

水位線の標高値を縦断成果データに連動します。
同一タイプの水位線が複数ある場合、以下の設定が適用されます。

最上位の水位線を使用(E) 水位線の平均値を使用(A)

断面名	計画高水位	計画低水位	計画基準水位
<input checked="" type="checkbox"/> 27.0K	19.25		
<input type="checkbox"/> 橋梁	22.20		
<input type="checkbox"/> 27.2K	23.05		
<input type="checkbox"/> 27.4K	22.22		
<input type="checkbox"/> 27.6K	20.02		
<input type="checkbox"/> 27.8K	22.20		
<input type="checkbox"/> 28.0K	28.66		

全選択(S) 全解除(R) OK キャンセル

7-3

断面積計算書を追加

[計算書作成] に [断面積計算書] を追加し、全断面の有効な水位線を計算書に出力できるようにしました。

計算書の作成

共通 単距離 縦断野帳 縦断成果表 プリント断面選択

名称(I): 計算書1

計算書名(C): 河川定期縦横断測量 計算書

現場名(N): 20220802 河川定期縦横断データ

日付(D): 令和04年 08月 02日

計算書グループ(G)-タイプ(F)

断面積計算書 プレビュー選択(B)...

タイプ 1

開始ページ(P): 23

計算書作成(M)

- 計算書を保存する
- 計算書を保存しない
- 計算書プレビューを表示

座標・地番を登録する(R)

最新の計算書に上書きする(Q)

日付を空欄にする(S)

表紙を作成する(H)

成果(K)

上付き数字に変換する(地籍測量)(U)

フォント(E)

[ファイル]-[オプション]-[計算書]のフォント

フォントを指定 M S 明朝 Aaあアッ 亜字

OK キャンセル

8 3次元計測

3次元計測の新機能をご紹介します。

8-1 斜め往復撮影に対応

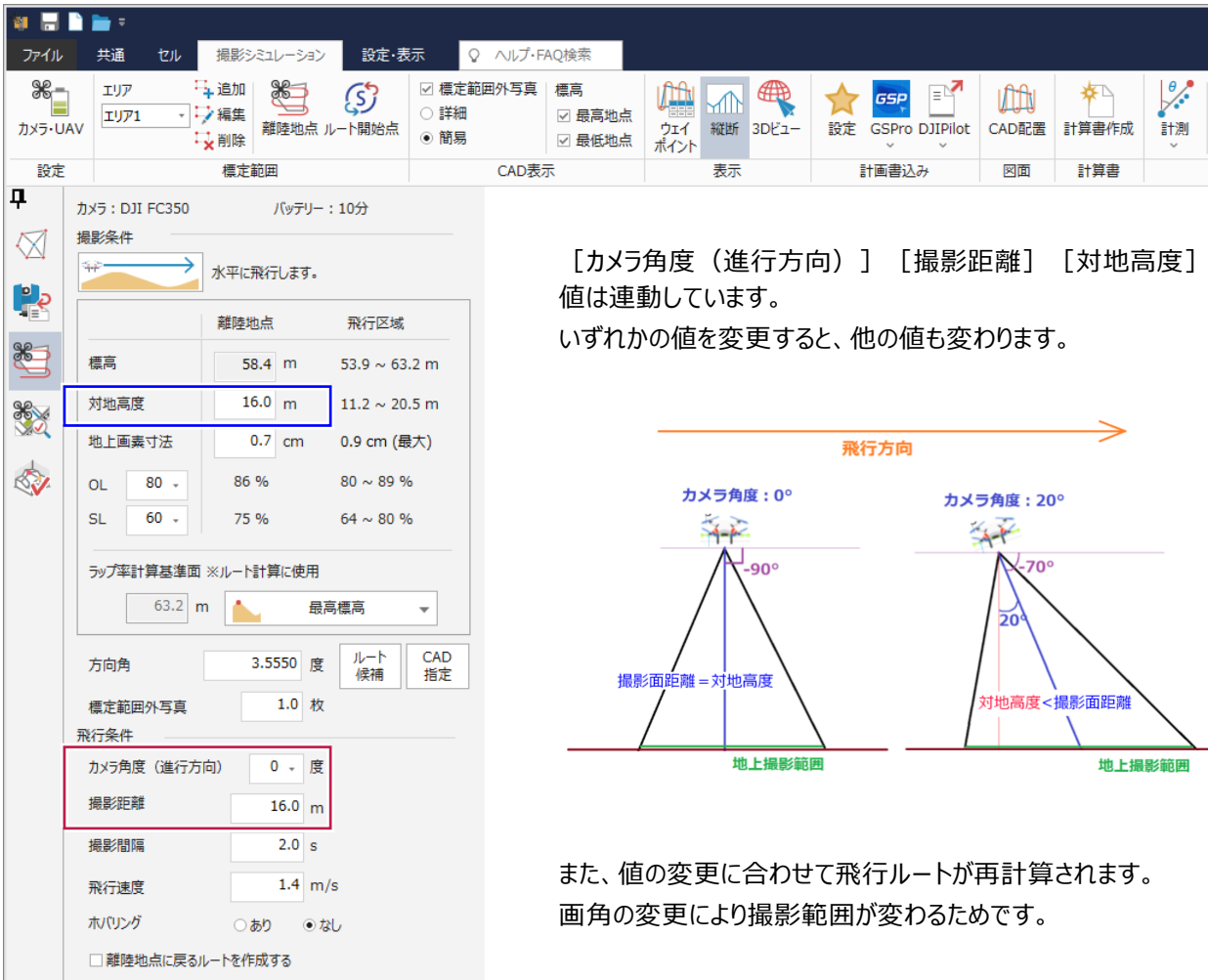
飛行条件で、カメラの角度を設定できるようにしました。

「傾けたカメラで撮影した写真を含めると、標高の精度が向上（高度の誤差が小さくなる）する」という研究結果を受けての対応です。

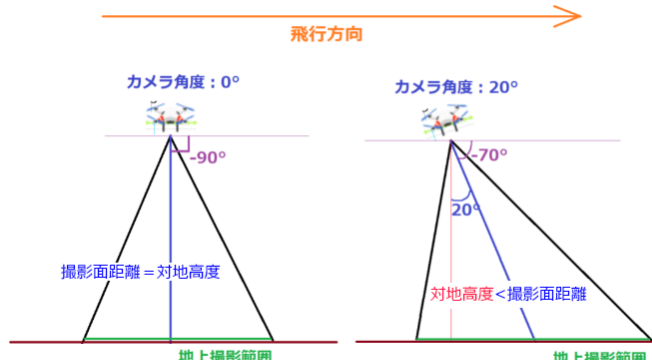
これにより、より精度が高くより実用的な計画の立案が可能となります。

※対象となる機器はUAVのみです。

① [撮影シミュレーション] ステージの [飛行条件] に、[カメラ角度（進行方向）] と [撮影距離] を追加しました。



[カメラ角度（進行方向）] [撮影距離] [対地高度] の値は連動しています。いずれかの値を変更すると、他の値も変わります。



また、値の変更に合わせて飛行ルートが再計算されます。画角の変更により撮影範囲が変わるためです。

※「カメラの角度」は非公式の扱いなので公的な文書には規定がなく、既存の帳票への変更はありません。

8-2

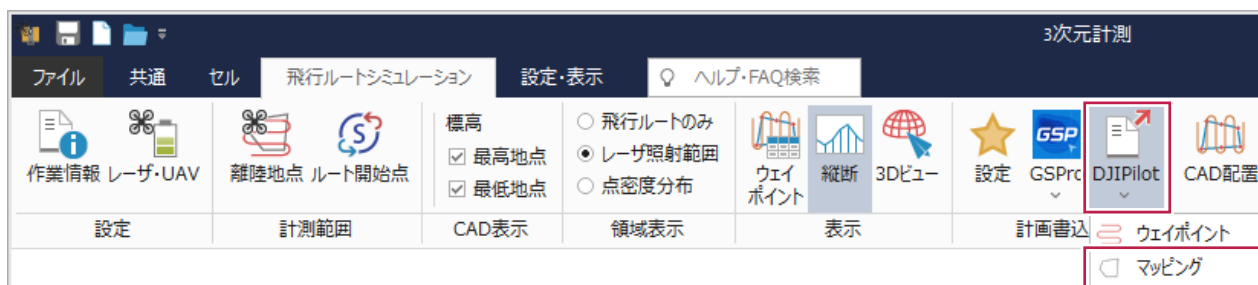
DJI Pilot のマッピングモードに対応

ONEで立案した飛行計画を、DJI Pilotのマッピングモードで取り込めるようにしました。
従来のルートを指定する計画と異なり、計測する範囲での出力が可能となります。

UAV



ULS



マッピングモードでの出力時には、飛行エリアに加え飛行高度・速度、カメラ諸元、オーバーラップ、サイドラップなど、全てのパラメータが連動します。

8-3

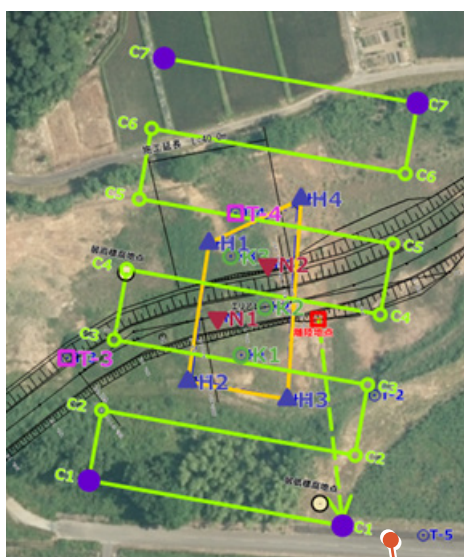
撮影／飛行ルートの変更に対応

飛行ルートの開始位置を指定できるようになりました。
 任意の位置から開始することで、効率的な飛行ルートを作成できます。

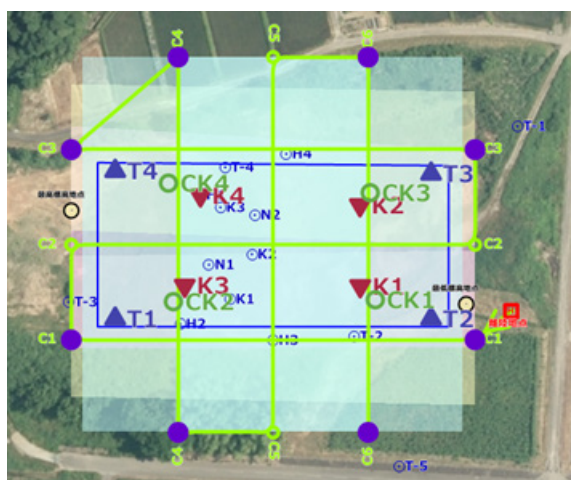
UAV



ULS

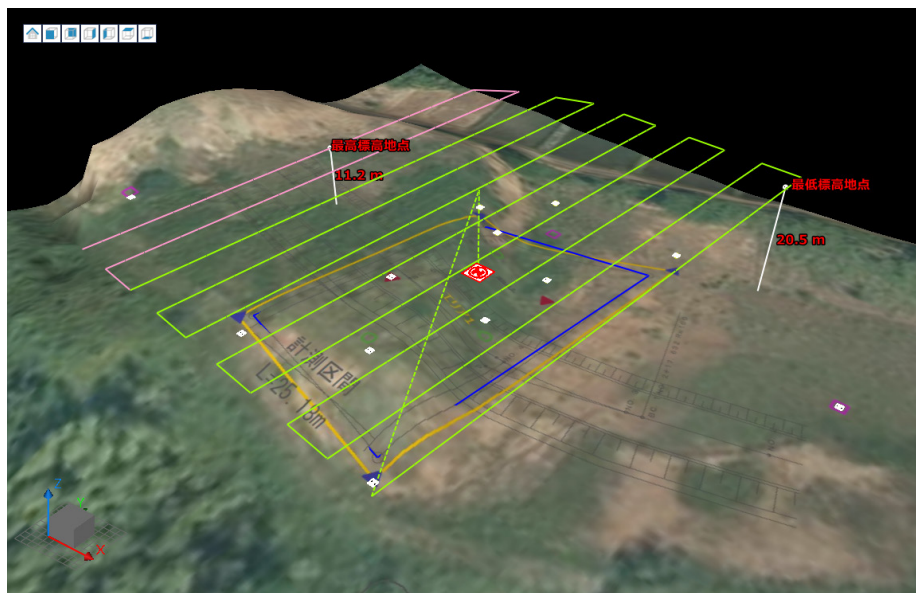


コースの四隅から選択します。



自動で作成されたコースの四隅と、手動で追加したコースがあれば、その端点から選択します。

3Dビューで確認できます。



8-4 グリッドコースの自動作成に対応

密度を上げるために部分的に手動で追加していたコースを、自動で作成可能としました。

[ルート調整] の機能として [自動作成] を追加しました。

[自動グリッド設定] ダイアログで指定した範囲にコースを作成します。

8-5 手動コースの個別削除に対応

① 手動で追加したコースを、**1本ずつ個別に**削除できるようにしました。コマンド名は [削除] です。

② [自動作成] [削除] の追加に伴い、従来の [コース追加] [コース削除] の名称を [追加] [全削除] としました。

([追加] : 手動でコースを追加します。 [全削除] : 手動で追加したコースを**全て**削除します。)

新規追加

名称変更

自動グリッド設定

グリッドコースを追加する範囲を決定します。
計測範囲の端からのオフセットを入力してください。

垂直方向の短縮距離※1
作成グリッドコース

計測範囲

自動作成飛行ルート

進行方向の延長距離※2

※1 垂直方向の短縮距離 0 m

※2 進行方向の延長距離 0 m

OK キャンセル

※このページの説明の対象機器はULSのみです。

8-6

作業規程の準則改訂に対応

国土交通省が「作業規程の準則」の一部を令和5年3月31日に改正しました。
これに伴い、以下のようにプログラムを修正しました。

- ① 計測機器としてULSを指定時、[公共測量] [土木測量] から選択できるようになりました。
新たに [公共測量] の条件を追加しています。
どちらを選択するかにより、[位置精度] における [要求精度] の範囲が変わります。
指定した [要求精度] に連動して、用途や点密度の選択肢が変更されるのは従来通りです。

計測設定

作業方法

UAV ULS TLS

公共測量 土木測量

位置精度(P)

要求精度	主な適用作業	調整点配置数
<input checked="" type="radio"/> 標高:0.10m以内	グラウンドデータ グリッドデータ 等高線データ	面積(km ²)/0.25 + 3 ※4点以上
<input type="radio"/> 標高:0.20m以内 水平:0.15m以内	数値地形図データ (地図情報レベル500)	面積(km ²)/0.25 + 1 ※2点以上
<input type="radio"/> 標高:0.30m以内 水平:0.30m以内	数値地形図データ (地図情報レベル1000)	面積(km ²)/0.25 + 1 ※2点以上

点密度(D)

10点/m²以上 400点/m²以上
 100点/m²以上 任意 点/m²以上

OK キャンセル

計測設定

作業方法

UAV ULS TLS

公共測量 土木測量

位置精度(P)

要求精度	主な適用作業	調整点配置数
<input type="radio"/> 0.05m以内	出来形管理 (出来形計測)	面積(km ²)/0.25 + 3 ※4点以上
<input checked="" type="radio"/> 0.10m以内	工事測量 (起工測量)	面積(km ²)/0.25 + 1 ※2点以上
<input type="radio"/> 0.20m以内	工事測量 (部分払い用出来高計測)	面積(km ²)/0.25 + 1 ※2点以上

点密度(D)

100点/m²以上 4点/m²以上 任意 点/m²以上

OK キャンセル

- ② [レーザスキャナ・UAV設定] ダイアログ内の文言を一部変更しました。
従来は [スキャン回転数] [rps] と表示していたものです。意味は従来と同じです。

レーザスキャナ・UAV設定

レーザスキャナ諸元

パルスレート(P) kHz

スキャンレート(S) Hz

レーザ走査角(A) 度

レーザ間の角度(L) 度

レーザ発散角(I) mrad

最大測距距離(M) m

計測諸元

有効測距率率(C) %

計測対象物への
レーザ有効入射角(D) 度

UAVバッテリー

飛行可能時間(B) 分

飛行の目安に使用します。
バッテリー時間内に飛行ができない場合、
飛行ルートの色が途中で変わります。

OK キャンセル

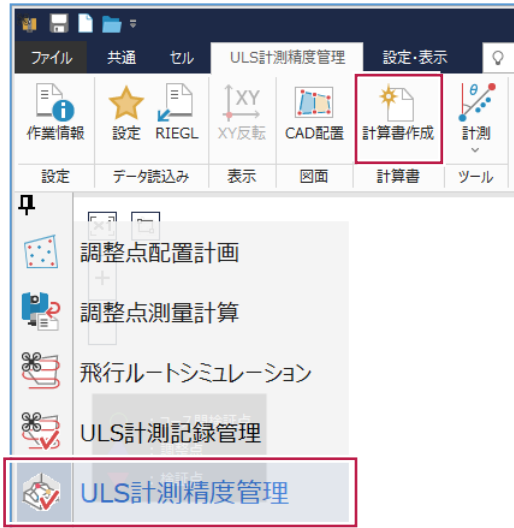
③ 「作業規程の準則」の改正による様式の追加、変更に対応しました。一部を以下に示します。



文言が変更されています。

飛行・計測諸元計画表

地区名	作業機関名		
	主任技術者		
項目	パラメータ設定値	備考	
対地高度	60.0 m		
計測高度	118.1 m		
対地速度	25.2 km/h		
コース数	2 コース		
コース間重複度	30 %		
パルスレート	100000 Hz		
スキャン角度	90 度		
スキャンレート	100 Hz		
ビーム径 (地上部)	2.0 m		



計算書の作成

共通 点検測量結果精度管理表

名称(T): 計算書2

計算書名(C): 3次元計測 計算書

現場名(N):

日付(D): 令和05年 10月 18日

計算書グループ(G)・タイプ(F)

点検測量結果精度管理表 プレビュー選択(B)...

検証点 標高・水平位置 タイプ 1 R5年作業規程

検証点 標高・水平位置 タイプ 1 R5年作業規程

開発 検証点・標高 タイプ 1

座標・地番を登録する(R)

最新の計算書に上書きする(O)

日付を空欄にする(S)

表紙を作成する(H)

成果(K)

上付き数字に変換する(地籍測量)(U)

フォント(E)

● [ファイル]-[オプション]-[計算書]のフォント

フォントを指定 MS 明朝 Aaあぁアァ亜字

計算書を保存する

計算書を保存しない

計算書プレビューを表示

令和5年改正の帳票です。

OK キャンセル

Page 2

点検測量結果精度管理表 (検証点 標高・水平位置)

世界測地系 (測地成果2011)

地区名								作業者					
点検測量手法		T						点検者					
		検証点			オリジナルデータ			点検測量結果とオリジナルデータとの較差					
番号	点名	水平座標		標高	水平座標		平均標高	水平座標の較差		標高の較差			
		X (①)	Y (②)	H (③)	X (④)	Y (⑤)	H (⑥)	ΔX (④-①)	合否	ΔY (⑤-②)	合否	ΔH (⑥-③)	合否
1	K1	7440.287	26069.171	59.380	187559.310	82922.658	52.6300	119.023	否	56853.487	否	-6.700	否
2	K2	7469.828	26070.369	57.002	187489.472	82915.860	51.9654	019.64	否	56845.491	否	-5.038	否

「標高」「水平位置」を個別の帳票で出力していましたが、1帳票に集約されました。

新たに追加した様式の一覧は次の通りです。

ステージ	グループ	タイプ
飛行シミュレーション	飛行・計測諸元計画表	タイプ 2 R5年作業規程
計測記録管理	ULS計測記録簿	タイプ 2 R5年作業規程
	最適軌跡解析記録簿	GNSS/IMU解析結果精度管理表② R5年作業規程
計測精度管理	コース間検証精度管理表	タイプ 2 R5年作業規程
	オリジナルデータ均一度検査表	タイプ 2 R5年作業規程
	調整点検証精度管理表	標高・水平位置 タイプ 1 R5年作業規程
	点検測量結果精度管理表	検証点 標高・水平位置 タイプ 1 R5年作業規程
	点密度検証精度管理表	タイプ 2 R5年作業規程
	グラウンドデータ作成作業精度管理表	タイプ 2 R5年作業規程
	グッドデータ作成作業精度管理表	タイプ 2 R5年作業規程

- ④ ULS計測情報に「使用カメラ」を追加しました。
他の設定値と同様に、計算書に出力されます。



ULS計測情報

計測日(D) 令和05年 10月 17日

離着陸場所(K) 九頭竜河原

対地高度(E) 60 m

速度(S) 7.0 m/s

操縦士(Y) 佐藤としお

計測機器名(N) UAV

使用カメラ(C) カメラの名前

最速軌跡解析ソフト(F) NOONE

気象(W)
天気 晴 気温 23.5 °C
風速 2 m/s

固定局(X)
1 FIX-1 4
2 FIX-2 5
3 FIX-3 6

仰角マスク(G) 10 度

社内検査期間(1) 1 人日

オフセット(O)
REF→GNSS REF→IMU
dx dy dz dx dy dz

ポアサイト(B)
REF→IMU
dx dy dz

OK キャンセル

UAVレーザ計測記録簿

地区名		作業機関名		現場責任者		操縦士	佐藤としお
計測年月日	令和5年10月17日	離着陸場所	九頭竜河原			離陸時間	11:07
対地高度	60 m	対地速度	7.0 m/s	天気	気温	風速	着陸時間
				晴	23.5 °C	2 m/s	計測機器名
コース	開始時間	終了時間	コース	開始時間	終了時間	計測點図	

GNSS/IMU解析結果精度管理表②(航空レーザ測量/航空レーザ測深測量/UAVレーザ測量)

作業名または地区名		計測年月日	令和5年7月18日	使用機器	UAV	計測機関名		主任技術者						
		対地高度(m)	60	使用カメラ	カメラの名前	作業機関名		点検者						
最速軌跡解析(使用ソフト)				NOONE		仰角マスク								
コース数		4	使用した固定局		1) FIX-1	2) FIX-2	3) FIX-3	4)	5)					
DOPの平均値(上段)及び最大値(下段)	P DOP	位置の平均値(上段)及び最大値(下段)		位置の平均値(上段)及び最大値(下段)		解の品質基準			位置標準偏差の平均値(上段)及び最大値(下段)(m)			姿勢標準偏差の平均値(上段)及び最大値(下段)(度)		
		X(E)	Y(N)	Z	フィックス解	固定フロート解	取車フロート解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z
		1.2	-0.003	0.000	0.004				0.011	0.007	0.020	0.013	0.013	0.100

9 図枠カスタマイズツール

図枠カスタマイズツールの新機能をご紹介します。

9-1 申請文字を追加

[文字入力] コマンドに連動文字を追加し、申請文字に「作成年月日」や「1/縮尺」を設定できるようにしました。

